

(特非) えひめグローバルネットワーク

一般助成

3年目

実践



モザンビークの女性によるSDGs刺繍の作成

アジア・アフリカとつながる 四国SDGsネットワーク(SSN) 構築プロジェクト

開催した勉強会、
イベント回数

4回

勉強会、イベント
参加者数

147人

活動の全体目標に
対する達成度

90%

課題

先進国と途上国の格差、また途上国の開発による国内の格差が広がる中、四国においても人口の問題と相まって都市部と中山間地域の格差は引き続き拡大し続けている。

目標

多様な主体が連携した四国SDGsネットワーク(SSN)を構築し、四国各県での勉強会・研修会の開催、アジア・アフリカ、四国でのケーススタディを踏まえた共通する課題の明確化、解決・改善のための試行を行う。

活動内容

SDGsに関連した勉強会、意見交換会を四国各県で開催し、主に四国の高校生・大学生などのユース世代によるSDGsネットワーク構築に取り組んだ。定期的な意見交換・SDGsの実践の場として、SDGsの目標11「持続可能なまちづくり」に関連した「東雲インターナショナル防災」をNPO関係者、松山市、消防署等と連携して、毎年12月に実施する方向で検討することができた。



SDGs 四国フォーラム開催

達成できなかったこと

商品開発についてSDGsの公式なロゴマークが発表される前に刺繍をデザインし作成し始めたため、その後活用が難しかった。

今後の展望

ユース世代を中心として発足した二つの活動と連携しながら学びあいの場をつくり続けたい。

成果と工夫した ポイント



成果

SDGsをテーマに、持続可能な社会の実現のために学びあい、つながる場として「四国ユースサミット実行委員会」、「wakuwaku-youth」といったユース主体の活動が2件動き出した。

工夫

SDGsの17項目のうち、テーマを絞って取り組んだことで成果につながった。